

対馬からチャイロチビゲンゴロウとチビゲンゴロウの記録

境 良朗

(1) チャイロチビゲンゴロウ *Liodessus megacephalus* (Gschwendtner, 1931)

本種は日本では本州、四国、九州、南西諸島で記録がある(中島ほか, 2020)。九州北部では沿岸域に広く生息しているという(中島氏, 私信)。杉憲氏より、海岸近くの水たまりに小さなゲンゴロウのような虫がたくさんいたという情報と採集された数頭の個体をいただき、交尾器を確認したところ本種であった(写真2)。これまで対馬からは記録がないので報告する。

- ・数頭, 対馬市厳原町野良, 26.VI.2020, 杉憲採集 境保管
- ・多数, 対馬市厳原町野良, 28.VI.2020



写真1 左: 背面 右: 腹面



写真2 左: 交尾器 右: 中央片



写真3 明るい色彩の個体

生息が確認されたのは海が迫った海岸の岩礁にできた水たまりでボウフラも湧いていた。主に雨水がたまったものと思われた(写真4)。一部、崖からの染み出しが流れ込んでいる所もあった。中島ほか(2020)によると、塩水混じりのタイドプールなどにも生息するとあるので塩分に強い種なのであろう。

体長は2.8mm~3mmを越える程度で、胸背と上翅を結ぶような条溝が認められた(写真1)。斑紋は写真1のように後半部に黒色部が広がることで安定しているが、ごく稀に色彩が明るい個体も見られた(写真3)。腹面では中胸・後胸~腹部まで黒色になる(写真1)。11月に現地を訪ねると姿を消していた。

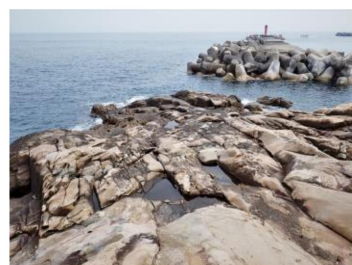


写真4 生息環境

(2) チビゲンゴロウ *Hydroglyphus japonicus* (Sharp, 1873)

本種の対馬の記録については、林・北山(2002)の分布表に「文献資料における記録(▲印)」として記載されているが、その根拠となった文献を見つけることはできなかった。同定がやや難しい種でもあるので、ここに新たに確実な記録として報告しておく。

- ・3exs, 26.VIII.2018, 対馬市豊玉町佐保
- ・3exs, 23.VI.2020 ; 2exs, 1.VII.2020, 対馬市上県町仁田

仁田ではかなり年数の経った廃田跡のわずかな水たまりで見られた。前種と同様に胸背と上翅を結ぶような条溝が認められた。本種は斑紋の個体変異が大きいうで、黒化した個体も見られた。

最後になるが、生息情報をいただいた杉憲氏、鶴野秀勝氏、対馬の記録についてご教示いただ



左: 通常個体 右: 黒化個体

くと共に発表を勧められた中島淳氏、関係する文献を恵与いただいた松尾照男氏にお礼申し上げます。

引用文献

中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 44, 295pp. 文一総合出版, 東京.

森正人・北山昭, 2002 図説 日本のゲンゴロウ改訂版 文一総合出版, 東京.